

北十八間櫓

全長 40m の北十八間櫓は、本丸の北隅にあった木造平屋建ての鉤形の櫓です。この櫓は江戸時代（1603-1867）初期のもので、高さ 20m の石垣の上に建っており、南では東十八間櫓、北では五間櫓とつながっていました。「北にある長さ 18 間の櫓」（「間」は昔の単位で、およそ 1.82m に相当します）を意味するこの名前は、方位を表す干支の動物にちなんで名付けられた他の櫓よりも意味が明快です。2016 年の地震では、櫓とその下の石垣の両方が崩壊しました。これらの部材は今、修復と再構築のために保管されています。